

西室、三経院

西室はもともと西院伽藍の西廻廊に隣接して建っていた僧侶たちの居室だった。1077～81年の頃に焼失し、1231年に南側を三経院とし、後方を西室とする建物として再建されたもので、1955年に国宝に指定されている。三経院は、法隆寺の創始者である聖徳太子（574－622）が仏典の注釈解説を行った『三経義疏』から、その名前を取っている。この経典の注釈書は深い仏教哲学者としての彼の偉業を後世に残すものである。その注釈書が完成したのは615年で、日本で著された最も古い注釈書である。これらの経典で与えられた教訓の中には、すべての衆生が悟りを達成するだろうということがある。毎年5月16日から8月15日まで、法隆寺の僧によって毎日この経典の講義が行われている。これは安居という行事で聖徳太子が、この三経を広めて人々を救うように努めなさいと法隆寺の僧に言い遺されたことによる。